

燕労災病院の理念

働く人々と、地域の人々のために最善の医療を目指します。

病院の基本方針

安全で質の高い医療の提供を目指します。

勤労者の健康管理を支援します。

医療に関する教育・研修を支援します。

地域の人々の健康を守り、福祉に寄与します。

目次:

* センターの仕事ってどんなこと?	1
* 医師の交代について	2
* 市民勤労者医学講話を開催しました	2
* 当院で活躍する認定看護師とは?	3
* 編集部より	3
* 外来診療科別担当医師表	4

燕ろうさいつうしん

【 センターの仕事ってどんなこと? 】

勤労者医療総合センター 岩坪 均

今年の3月にこの燕労災病院に赴任して早くも半年が過ぎ、初秋の風が心地よく感じられる季節となってきました。赴任当時は、まだ田畑に雪が残っており、あわてて愛車(ボロボロの軽四)に新品のスタッドレスタイヤを履かせて、バッテリーを寒冷地仕様に替えて、関東地区から関越道を飛ばして、この燕の地に引っ越してきたのが懐かしく思えてきます。



さて、私は燕労災病院の「勤労者医療総合センター」(以下、「センター」という。)という部署に所属しているのですが、部署名だけ聞くと「どんな仕事をしているの?」と、誰もが疑問に思うところです。そこで、センターでの仕事について簡単にご紹介したいと思います。

センターでは「勤労者の予防医療」と「地域の医療連携」及び「職業性外傷の研究」の3つの業務に取り組んでいます。

最初に「勤労者の予防医療」については、地域住民及び勤労者の予防に係る代表的な取り組みとして、「健康診断結果に基づく保健指導(生活・栄養・運動指導)」、「メタボ改善教室」などを実施しています。

次に「地域の医療連携」は、地域医療支援病院として地域の医療機関との連携強化を図るために、紹介、逆紹介の推進、医療従事者を対象とした講習会、研修会等の開催、高度医療機器(CT、MRI等)の共同利用に取り組んでいます。

最後に「職業性外傷の研究」では、この地域には洋食器などの金属加工業の中小企業が多く、手指切断などの外傷が多く発生していることから、職業性手指外傷に対する治療や機能回復などについての研究・開発、普及に取り組んでいます。

このようにセンターの仕事は、直接患者さんと接して病気や怪我を診て治すのではなく、地域の方々が自らの生活習慣を見直されたり、異常があるところを早期に発見し、適切な治療が受けられるよう、お手伝いするという側面が大きいと思っています。

これからも、微力ではございますが、地域の医療機関との連携を図りつつ、地域住民や勤労者の皆様の健康管理に必要な情報の発信や取り組みを行ってまいりますので、よろしくお願いたします。

【医師の交代および赴任について】

平成24年10月より次のとおり医師が交代いたしました。
今後も地域の皆様に貢献できる病院を目指して努めてまいります
ので、よろしくお願いいたします。

神経内科医師 いけだ てつひこ 池田 哲彦（眞島 卓弥医師の後任）
臨床研修医 かわい とある 川合 暢



(池田)



(川合)

【市民・勤労者医学講話を開催しました】

9月11日（火）に「市民のための救急対応講座 救急蘇生とAED」について、新潟医療技術専門学校救急救命士の羽柴先生が講演されました。



まず、「救命処置」とは「急に倒れたり、窒息を起こした人（急変した傷病者）に対して、その場に居合わせた人が、救急隊や医師に引継ぐまでの間に行う応急手当」のことを言います。この救命処置は、心停止してから除細動まで3 - 4分以内に行った場合、救命の可能性（生存率）は約50%なのに対し、心停止してから救急車が来るまで何もしなかった場合、生存率は約20%と大幅に差が出てきます。また、心停止の発生場所の多くが住宅であることから、居合わせた人による救命処置ができるよう近年、施設にAEDを設置するなど環境が整備されつつあるそうです。

しかし、実際にその場に遭遇してもなかなか対応できません。そこで、今

回は羽柴先生の指導のもと「失敗を恐れない!!」ということで、AED（自動体外式除細動器）と胸骨圧迫、人工呼吸の一連の処置を体験しました。

意識のない人を見つけたら、声をかける。

「大丈夫ですか！聞こえますか！！」

反応がなかったら、大声で応援を呼び、119番通報とAEDを依頼する。

「誰か来てください！AEDはありませんか！」

呼吸がなかったら、ただちに胸骨圧迫を開始する。

- ・胸の真ん中、成人は胸が5cm程度沈むまで強く。
- ・30回連続で、絶え間なく速く行う。少なくとも100回/分以上。

人工呼吸ができないか、ためられる場合は胸骨圧迫のみを行う。

AEDを着ける。

- ・案内に従い、指示されれば電気ショックを行う。2分ごとに繰り返す。

胸骨圧迫から人工呼吸を再開する。

- ・救急隊に引き継ぐまで、または傷病者に呼吸や目的のある仕草が認められるまで を続ける。

救急車が連絡を受けてから現場に到着するまで、全国平均約8分かかるとのことです。だからこそ、居合わせた人が救命処置を行うことが救命率の向上に重要となるとのことでした。

次回は11月13日（火）「薬の正しい飲み方」について、薬剤部が講演されます。聴講は無料ですので、ぜひお越しください



【燕労災病院 認定看護師です！！】

当院には現在、6名6種類の認定看護師が勤務しています。今回、その業務内容について答えていただきました。



感染管理認定看護師

医療関連感染から、患者さまや病院を訪れる人々、病院で働く人々などを守るため、感染防止教育や啓発、病院内で発生する感染症の監視、感染を防止するための相談などを行なっています。



皮膚・排泄ケア認定看護師

ストーマ外来では造設患者さまに定期的フォローアップと相談に応じています。また、褥瘡に関しては地域で働く医療従事者の方からの相談に応じたり、指導も行っています。



手術認定看護師

外来で手術が決定された時から、患者さまやご家族の安心に少しでも繋がるように、外来でも手術や麻酔の説明ができるように準備を行っています。外来や病棟を問わず、手術に関する不安や疑問などお気軽にご相談下さい。



糖尿病看護認定看護師

食生活の欧米化など多様化する社会生活の中で、糖尿病患者さまの合併症の発症や疾患の悪化を防ぎ、その人らしく健やかな生活を継続できるよう療養生活の支援に取り組んでいます。また、糖尿病看護に対する、看護師教育を行っています。



がん化学療法看護認定看護師

がん化学療法を受ける患者が治療を納得して、安全で安楽に治療を受けることができ、患者さま自身がセルフケア能力を整え日常生活を送りながら治療を継続できるように看護を提供します。また、看護職者に対してがん化学療法看護に関する相談を行っています。



緩和ケア認定看護師

がんと診断された時から患者さまが自分自身で納得のいく治療を受けられるように、がんに伴う様々な苦痛症状を緩和し、安楽に過ごせるように支援しています。



私たちは看護の質の向上ために、日々、活動しています！

【編集部より】

昼夜の寒暖の差が激しくなり、秋の気配が感じられるようになりました。食欲の秋、スポーツの秋、芸術の秋を満喫するためにも、インフルエンザの予防接種を欠かさずに受けましょう！！(Y.S)

